

## 第5学年 外国語科 学習指導案

日時 令和6年11月1日（金）第5校時  
 学園生 5年B組 28名  
 指導者 吉田大地

## 1 単元名 Unit6「At a restaurant.」

## 2 単元の目標

- (1) 自国と世界の食文化への理解を深めるとともに、さまざまな料理を楽しむために、食事の注文や値段を聞き取ったり、ていねいに注文したり値段をたずねたりすることができる。（思・判・表）  
 (2) 単語のはじめの音を聞き取ったり、複数の文字の名前を聞いて小文字を書き取ったりする。（知・技）

## 【言語材料】

表現 What would you like? / I'd like a hamburger and juice.

How much is it? / It's 940 yen. など

語彙 食べ物、飲み物、デザート、数、味 など

## 3 大空学園の研究にかかわって

【仮説1】自国の文化と他国の文化を比較することによって、異文化を認めたり自国の文化の価値に気づいたりできるだろう。

本時の導入では、スモールトークで「外国人におすすめする日本の料理や、日本ならではの食文化は何か？」について話し合い、楽しい雰囲気の中で自国の料理や食文化を見つめ直させたい。また、「世界の食文化クイズ」では、クイズ形式で世界の食文化について触れていく。クイズを通して、世界の料理や食べ方、考えなど様々な視点で異文化への興味と親しみをもつきっかけとしたい。

【仮説2】「自分にできること」を考える場面を意図的に設定することによって、主体的に国際社会に参加しようとする態度をもつことができるだろう。

本時の後半に、自国と世界の食文化の違いや日本ならではの文化について気づいたことや思ったことをグループで協働作業しながらまとめる活動を設定した。食文化の違いや日本ならではの文化への気づきをアウトプットしたり、他者とすり合わせたりすることで、本時の目標である「異文化を認めたり自国の文化の価値に気づいたりする」態度をもつことにつながると考える。

## 4 指導計画（全8時間）

学習段階	授業の展開	評価の観点と手だて □評価 ◆手立て
1次 (1時間) 知る 本時	○自国と世界の料理や食文化を比較する活動を通して、自国の文化の価値や世界の文化に対する理解を深める。	□世界の料理や食文化について、異文化を認めたり自国の文化の価値に気付いたりしている。（主） ◆各国の食文化に関する資料
2次 (1時間) 見通す	○本単元の目標や活動内容について理解し、大まかな見通しをもつ。	□単元の目標や活動内容について理解し、大まかな見通しをもっている。（主） ◆モデルパフォーマンス
3次 (3時間) 習得する	○主な表現（食事の注文や値段についてのやり取り）や語彙（食べ物など）に慣れる。 ○食事の注文や値段についてやり取りを行う。	□食事の注文や値段についてのやり取りや語彙を理解し、身につけている。（知・技） □食事の注文や値段についてのやり取りから具体的な情報を聞き取っている。（思・判・表） ◆デジタル教科書、Quizlet など
4次 (2時間) 活用する	○表現活動「My restaurant を開こう」を通して、食事の注文や値段を聞き取ったり、ていねいに注文したり値段をたずねたりする。	□【簡単な単語や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え】合っている。（思・判・表） □【同上】合おうとしている。（主） ◆パフォーマンス評価シート
5次	○単元末テストを行う。	□必要な知識や技能を習得している。（知・技）

(1時間) 振り返る	○学習を振り返る。	□単元を通して、身につけた力を振り返っている。 (主) ◆ペーパーテスト
---------------	-----------	--

## 5 本時の目標

自国と世界の食文化を比べて、異文化を認めたり自国の文化の価値に気づいたりする。(主)

## 6 本時の展開

学習活動	□評価 ◆留意点	●国際理解の視点
1. 挨拶をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・Hello.</li> <li>・How are you?</li> <li>・What's the date today?</li> <li>・What day is it today?</li> </ul> 2. テーマ「外国の人に、おすすめしたい日本食は？」でスモールトークを行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・What Japanese food do you like? →一汁三菜、寿司、ラーメン など</li> </ul> 3. 課題をつかむ。	◆代表的な日本食の資料を用意して、可視化を図る。 ◆世界の食文化へ関心を仰ぎながら、課題につなげていく。	●日本は、自然のめぐみを尊重しつつ、海外の食材や料理を上手に取り入れたことが評価され、「和食文化」として無形文化遺産に指定されている。和食の基本形は「一汁三菜」であるが、カレーライスや寿司など一皿にまとめたものもある。また、ナポリタンやラーメンなど海外から伝わった料理を日本独自に変化させてきた。
<b>【課題】</b> 日本と世界の食文化を比べ、違いや日本ならではの食文化について理解を深めよう。		
4. 「世界の食文化クイズ」を通して、大まかな世界の食文化を捉える。 <p>(1) What food?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①フランス：パン、チーズ</li> <li>②イタリア：ピザ、パスタ</li> <li>③アメリカ：ファストフード</li> <li>④タイ：トムヤムクン、昆虫食</li> </ul> <p>(2) How to eat?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ナイフとフォーク</li> <li>②箸</li> <li>③手</li> </ul> <p>(3) What is important?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①家族団らん</li> <li>②食事マナー、ワインとのマリアージュ</li> <li>③自由・個人主義、ボリューム重視</li> <li>④宗教・習慣、考え方</li> </ul> 5. 日本と他国を比較し、食文化の違いや日本ならではの文化について気づいたことや思ったことをグループで協働作業しながらまとめる。           6. グループでまとめたことを発表し、全体に還流する。           7. 学習を通して、学んだことや考えたことを振り返る。	◆児童が興味・関心をもてるよう楽しい雰囲気を作り上げていく。また、活動が単調にならないよう学園生とのやり取りを大切にしていく。  □自国と世界の食文化を比べて、異文化を認めたり自国の文化の価値に気づいたりしている。(主：話し合い・付箋)	●本時で扱う食文化の内容は一般的な特徴であり、必ずしも全てが当てはまる訳ではないことを確認し、柔軟に文化を捉えていく必要性を伝える。  ●箸を使う文化圏は、世界の約28%で、中国や韓国、ベトナムなど東アジアに多い。日本は唯一、箸のみで食事をする「完全箸食文化圏」である。  ●日本ならではの食文化として、学園生の生活経験や資料などを踏まえながら以下の特徴を引き出したい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①一汁三菜を基本とした和食</li> <li>②日本独自の箸文化</li> <li>③「美」と「おもてなしの心」</li> <li>④「もったいない」や「いただきます」などの感謝の気持ち</li> </ul>